

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地				
履正社国際医療スポーツ専門学校		平成10年4月1日		池尾 忠思		〒532-0024 (住所) 大阪市淀川区十三本町3-4-21 (電話) 06-6305-6592				
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地				
学校法人 履正社		大正11年4月1日		釜谷 等		〒532-0024 (住所) 大阪府大阪市淀川区十三本町3-4-21 (電話) 06-6353-6592				
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度		高度専門士認定年度		職業実践専門課程認定年度	
医療	医療専門課程		鍼灸学科		平成17(2005)年度		-		平成28(2016)年度	
学科の目的		学校教育法及びはり師きゅう師法に関する法律に基づき、はり師きゅう師に必要な専門的知識及び技術を教授し、資格取得のみならず心豊かな人間性と確かな実践力を身に付けた医療人の育成と社会に貢献できる人材を送り出すことを目的とする。								
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)		アスリートに対する実践的な実習環境における「鍼灸＋AT」、「鍼灸＋スポーツ＝メディカルアスリート専攻」というダブルラーニング制度を利用したスポーツ分野の学びでは、医療国家資格に加えて日本スポーツ協会公認のAT(アスレティックトレーナー)をはじめトレーナーの資格取得を目指す。また、「医療＋美容」分野において活躍できるような土台を作るカリキュラム「トータル美容専攻」、「鍼灸＋パーソナルトレーナー」を設けることで健康な体作りに寄与できる技術を取得することも可能である。								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技	
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入			2,655 単位時間 96 単位	1,335 単位時間 54 単位	330 単位時間 11 単位	180 単位時間 4 単位	0 単位時間 0 単位	810 単位時間 27 単位
	生徒総定員		生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)		中退率	
180 人		137 人		0 人		0 %		5 %		
就職等の状況		■卒業者数(C) : 35 人								
		■就職希望者数(D) : 35 人								
		■就職者数(E) : 35 人								
		■地元就職者数(F) : 26 人								
		■就職率(E/D) : 100 %								
		■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 74 %								
		■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 100 %								
		■進学者数 : 0 人								
		■その他								
		・就職先未決定(国家試験未取得者含む) ※該当者なし								
第三者による学校評価		■民間の評価機関等から第三者評価: ※有る場合、例えば以下について任意記載								
		評価団体: -				受審年月: -		評価結果を掲載したホームページURL -		
当該学科のホームページURL		<a href="http://www.riseisha.ac.jp/">http://www.riseisha.ac.jp/</a>								
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)		(A: 単位時間による算定)								
		総授業時数					単位時間			
		うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数					単位時間			
		うち企業等と連携した演習の授業時数					単位時間			
		うち必修授業時数					単位時間			
		うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数					単位時間			
		うち企業等と連携した必修の演習の授業時数					単位時間			
		(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)					単位時間			
		(B: 単位数による算定)								
		総単位数					96 単位			
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数					12 単位					
うち企業等と連携した演習の単位数					3 単位					
うち必修単位数					96 単位					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数					12 単位					
うち企業等と連携した必修の演習の単位数					3 単位					
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)					1 単位					
教員の属性(専任教員について記入)		① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者(専修学校設置基準第41条第1項第1号)					6 人			
		② 学士の学位を有する者等(専修学校設置基準第41条第1項第2号)					0 人			
		③ 高等学校教諭等経験者(専修学校設置基準第41条第1項第3号)					0 人			
		④ 修士の学位又は専門職学位(専修学校設置基準第41条第1項第4号)					3 人			
		⑤ その他(専修学校設置基準第41条第1項第5号)					0 人			
		計					9 人			
		上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数					8 人			

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針  
入学者の多くは、スポーツトレーナーに魅力を感じ、医療国家免許とアスレティックトレーナーの両資格を取得し、活躍したい将来目標を持っている。現実的には、医療施設で就労し、ほぼ金銭的な見返りのない副業して目標達成を行っている。大半のケースは卒後医療職に従事するので、その資質を備えた人材をアドミッションポリシー(AP)においている。ディプロマポリシー(DP)は入学動機の目標達成にむけての就職先・研修先を紹介しているが、短期離職につながるミスマッチが発生しないように紹介については配慮をしている。カリキュラムポリシー(CP)においては、AT講座の受講推奨はもちろん、4期180時間の臨床実習でも、施設や実習期間配当面接を通じ、緊密に実習先の企業等と実習教育の連携を行っている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

医療専門課程の校務分掌に独立した外部委員会として位置付けている。当委員会からの意見や提案を各学科で検討し、実習等連携医療機関との打ち合わせ、講師派遣、インターンシップの導入などを実施している。また、今後において科学的根拠医療(EBM)の推進にあたり、外部所見や観察だけでなく、業団の学会、研修会での聴講、企業等の医療機器展示会、説明会にも学生を参加、体験させ、履修を行わせている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年7月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
高 折 洋	医療法人山紀会 山本第一病院	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	①
奥 田 真義	医療法人桜希会 東朋八尾病院	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	①
徳 山 健司	公益社団法人 大阪府柔道整復師会	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	③
田 中 雅博	履正社国際医療スポーツ専門学校 副校長	内部委員	—
西 村 展幸	履正社国際医療スポーツ専門学校 学科長	内部委員	—
辻 井 宏昭	履正社国際医療スポーツ専門学校 学科長	内部委員	—
木 下 拓真	履正社国際医療スポーツ専門学校 学科長	内部委員	—
竹 中 宏	履正社国際医療スポーツ専門学校 事務長	内部委員	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(6月、10月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年6月20日 14:00～15:00

第2回 令和6年10月24日 14:00～15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

少子化に伴い、健全な学校運営の停滞が懸念される中で、他校との差別化要素を明確にし、総合的な学校力の強化が求められている。本校では教育のDX化を進め、これまでの教育概念に捉われない教育手法を実践していく計画である。具体的には全科目において学生主体な能動的授業をITツールと組み合わせながら実践していくことや、実技科目や解剖学など視覚的な理解を進める科目ではVR技術を用いながら実践することを計画している。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

超高齢社会の到来に向けて、入退院・入退所と在宅支援連携が重要とされている。近年は社会的な状況を鑑み、スポーツ分野における経験を育むことに加えて、企業と連携して医療介護融合活動や多職種連携の状況を経験させることで鍼灸師として高齢者の身体機能の維持改善や健康寿命の延伸に寄与できることの意義を実感させるような演習・実習を取り入れている。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

地域のイベントならびにスポーツ大会等でブースを出展し、参加者のコンディショニングやケアを実施することで、患者(選手)対応から評価、治療まで一連の流れを実践的に経験できる機会を設けている。これらアスリートに対するアプローチの基礎はおがた治療院によるアスレティックトレーナー学で学ぶ。また、多職種連携の実践の場として、淀川区社会福祉協議会ならびに淀川区老人福祉センターからの依頼を受けて地域の高齢者を対象として転倒防止・体力強化を主目的とした運動指導を行い、その後希望者にはコンディショニングの一つとして鍼灸治療を実施する機会を年間を通して設けている。必要となる病態評価や治療の技術の一部はゆのう鍼灸院、鍼灸院さかいの指導により習得する。

(3)具体的な連携の例

科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
アスレティックトレーナー学1 アスレティックトレーナー学2 アスレティックトレーナー学3	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	アスリートの活動・活躍に不可欠なエネルギーと、骨・筋・神経・関節周囲の軟部組織の機能や構成を再確認し、最高のパフォーマンスが発揮できる能力を解剖学的アプローチから理解する。スポーツ選手に起こる障害は厳しい練習などにより引き起こされ、運動器系、内臓系や免疫系の疾患と多岐にわたる。スポーツ選手をより理解するトレーナーの視点を養うことにより、治療技術を向上することを目的とする。また、スポーツ選手がどのように考え、プレーしているかを映像、画像などを駆使し理解する。そしてテーピング、マッサージコンディショニングなどの技術を身に付ける。	おがた治療院
東洋医学臨床論2	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	鍼灸治療の適用範囲である各種疾患に対し、東洋医学的側面から検討し適切な治療ができるようにする。	ゆのう鍼灸院
臨床鍼灸学1 (経絡治療) 臨床鍼灸学2 (経絡治療)	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	日本の伝統的治療法である経絡治療は、症状に対する治療だけでなく病を起こしている根本をみつけアプローチする治療である。経絡治療をする上で必要な診察方法を習得することを目的とする。東洋医学概論の内容を、実際の臨床にどのように用いて、どのように診察するのかを経絡治療の立場から理解を深める。	鍼灸院さかい

### 3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

#### (1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

公益社団法人や公益財団法人が主催する学会、学術大会、研修会、オンラインセミナー、教員研修会、大専各の人権セミナー、交流会などを案内、参加を勧奨している。実習施設等の企業からのセミナーや指導者との勉強会、交流会も紹介し、受講を勧めている。また、往療費改正に関する連絡協議会や、卒業生の学会発表の聴講などについても、幅広く研修の機会を提供している。

#### (2)研修等の実績

##### ①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	第73回 全日本鍼灸学会 学術大会	連携企業等:	全日本鍼灸学会
期間:	令和6年5月24日～26日	対象:	専任教員、学科学生
内容	テーマ:つながり、通じ、いかす鍼灸～多様性の探究と連携医療への展開～ ※口頭、ポスター発表		
研修名:	第45回 東洋療法学校協会 学術大会	連携企業等:	東洋療法学校協会
期間:	令和6年10月10日	対象:	専任教員、学科学生
内容	テーマ:Do more with less ～最小の刺激で最大の効果をもたらすあはき～ ※口頭、ポスター発表		
研修名:	第23回 東洋療法推進大会in徳島	連携企業等:	全日本鍼灸マッサージ師会
期間:	令和6年9月29日～30日	対象:	専任教員
内容	テーマ:新たな潮流・生み出す未来		

##### ②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	第47回 教員研修会	連携企業等:	東洋療法学校協会
期間:	令和6年8月8日～9日	対象:	専任教員
内容	テーマ:「不易流行:デジタル化が教育現場で多用される時代に感性を見つめ直す」		
研修名:	第29回 日本病院総合診療医学会	連携企業等:	日本病院総合診療医学会
期間:	令和6年9月7日～8日	対象:	専任教員
内容	テーマ:病院総合診療の魅力を深堀する ー多様性と連携がもたらす明るい未来ー		
研修名:	第30回 日本災害医学会総会・学術大会	連携企業等:	日本災害医学会
期間:	令和7年3月6日～8日	対象:	専任教員
内容	テーマ:海とともに生きる！～伊勢湾台風復興の地で災害のこれまでとこれからを考える～		

#### (3)研修等の計画

##### ①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	第74回 公益社団法人 全日本鍼灸学会学術大会	連携企業等:	全日本鍼灸学会
期間:	令和7年5月30日～6月1日	対象:	専任教員、学科学生
内容	テーマ:女性のみかたⅡ ーフェムテックによる女性のWell-beingに貢献する鍼灸ー		
研修名:	第46回 公益社団法人 東洋療法学校協会 学術大会	連携企業等:	東洋療法学校協会
期間:	令和7年9月30日	対象:	専任教員、学科学生
内容	テーマ:東洋医学から学ぶ、心の持ち方とコミュニケーション術		
研修名:	第51回 日本東洋医学系物理療法学会	連携企業等:	日本東洋医学系物理療法学会
期間:	令和8年 3月7日～8日(予定)	対象:	専任教員
内容	テーマ:未定		

##### ②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	第48回 教員研修会	連携企業等:	東洋療法学校協会
期間:	令和7年8月7日～8日	対象:	専任教員
内容	テーマ:変化する社会とスポーツの力 ～現場と鍼灸教育の連携による次世代への架け橋～		
研修名:	第20回 公益社団法人 日本鍼灸師会 全国大会 in いばらき	連携企業等:	公益社団法人 日本鍼灸師会
期間:	令和7年10月4日～5日	対象:	専任教員
内容	求められる鍼灸・求める鍼灸 ー鍼灸と緩和ケアのコラボレーションを茨城から発信！！ー		
研修名:	第36回 日本疫学会学術総会 国際疫学会西太平洋地域合同大会	連携企業等:	日本疫学会
期間:	令和8年1月28日～30日	対象:	専任教員
内容	Epidemiology and Global Issues:Addressing Diversity,Complexity,and inclusion		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係評価者として医療経営者、医療従事者、スポーツ指導者、医療機器業者などの企業から、学校を取り巻く環境すべての面で意見と評価を受けている。医療関係者の企業様と共に学校関係者評価委員会を設置し当該専門科目における実務に関する知見を活かして、教育目標や教育環境等について評価し、その結果を次年度の教育活動及び学校運営改善の参考とする。学校関係者評価は「私立学校専門学校等評価機構 専門学校等評価基準」の評価項目を使用して実施した。自己点検・自己評価の結果を基に「専門学校における学校評価ガイドライン」に則り実施することを基本方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標
(2)学校運営	(2)学校運営
(3)教育活動	(3)教育活動
(4)学修成果	(4)教育成果
(5)学生支援	(5)学生支援
(6)教育環境	(6)教育環境
(7)学生の受入れ募集	(7)学生の受入れ募集
(8)財務	(8)財務
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	-
(11)国際交流	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会における、自己点検・自己評価の意見と提案を基に振り返りを行っている。特に要改善に該当する項目に関しては、学科ごとに小項目ごとの調査を行い、改善を図っている。昨年度、学校関係者評価委員会より①実技スペースの充実化、②自己学習スペースの充実化に関して指摘をいただいている。これを受け、授業が実施されていない普通教室ならびに実技室を自学自習スペースととして開放、さらには「団の間」・「黙の間」と称して、グループでの学習ができる環境を整備するだけでなく、質疑応答に応えられるよう教員を配置している。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年7月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
安村亮	ラックヘルスケア株式会社	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	業界委員
川上晃司	スポーツインテリジェンス株式会社	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	企業委員
野柳俊英	やなぎ整形外科クリニック	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	業界委員
中谷功	なかたに鍼灸整骨院	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	業界委員
清行康邦	公益社団法人全日本鍼灸学会	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	学識有識者
荻原嘉彦	ハギーコーポレーション	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	業界委員
池尾忠思	履正社国際医療スポーツ専門学校 学校長	内部委員	参加者
田中雅博	履正社国際医療スポーツ専門学校 副校長	内部委員	参加者
西村展幸	履正社国際医療スポーツ専門学校 学科長	内部委員	参加者
辻井宏昭	履正社国際医療スポーツ専門学校 学科長	内部委員	参加者
木下拓真	履正社国際医療スポーツ専門学校 学科長	内部委員	参加者
竹中宏	履正社国際医療スポーツ専門学校 事務長	内部委員	参加者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://www.riseisha.ac.jp/disclosure/>

公表時期: 令和6年11月28日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

当該委員会は、第三者的立場から評価・提言を得られる、重要な組織体であると認識している。当該委員会からの評価・提言は、本校の客観的強みや改善点など、新たな気づきの発見に繋がることから、本校学校運営に関わるあらゆる情報提供が必要であると考えている。また、医療・介護施設のみならず多分野に就職する学生を抱える専修学校という立場から、社会で必要とされる人物像や能力に関わる情報は、学校教育の改変に直結することから、企業等との連携・協力の推進を積極的に進めるものである。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校案内
(2)各学科等の教育	学科紹介
(3)教職員	先生紹介
(4)キャリア教育・実践的職業教育	体験型学習のススメ
(5)様々な教育活動・教育環境	十三キャンパス
(6)学生の生活支援	学生の日、就職先・キャリアアップ
(7)学生納付金・修学支援	納付金のご案内
(8)学校の財務	情報公開(財務)
(9)学校評価	情報公開(学校関係者評価)
(10)国際連携の状況	-
(11)その他	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他( )

URL: <http://www.riseisha.ac.jp/>

公表時期: 令和7年7月31日

授業科目等の概要

(医療専門課程 鍼灸学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			心理学1	臨床場面における心理学的視点を学ぶことで、対人援助職従事者としての心構えや患者との関係性の理解を深める。	2前	30	2	○			○			○	
2	○			心理学2	スポーツを行う際のパフォーマンスは心理的狀態に影響を受けている。そのため、心理学知見を学び、新たなスポーツ観を身につける。	2後	30	2	○			○			○	
3	○			栄養学1	消化・吸収された栄養素の体内での変化や役割を理解し、どのような食品に栄養成分が含まれているのかを知り、食事と健康の維持・増進、疾病の予防・治療との関連を理解する。	1前	30	2	○	△		○			○	
4	○			栄養学2	各栄養素の生理作用とそれらを含む食品についての理解を深めるとともに科学的根拠に基づき、スポーツ選手に必要なエネルギーや栄養量、栄養摂取方法の基本を理解する。さらに生活習慣病予防・改善のための効果的な運動と栄養素に関する知識を身につける。	1後	30	2	○	△		○			○	
5	○			7スレックトレーナ学1	アスリートの活動・活躍に不可欠な生命力的なエネルギーと、骨・筋・神経・関節周囲の軟部組織の機能や構成を再確認し、最高のパフォーマンスが発揮できる能力を解剖学的アプローチから理解する。	1後	30	2	○	△	○	○			○	○
6	○			7スレックトレーナ学2	スポーツ選手に起こる障害は厳しい練習の繰り返しにより引き起こされ、運動器系、内臓系や免疫系の疾患があり多岐にわたる。スポーツ選手をより理解するトレーナーの視点を養うことにより、治療技術を向上することを目的とする。	2前	30	2	○	△	○	○			○	○
7	○			7スレックトレーナ学3	スポーツ選手がどのように考え、過ごし、プレーしているかを映像、画像などを駆使し理解させる。テーピング、マッサージコンディショニングなどの技術を身に付ける。	2後	30	2	○	△	○	○			○	○
8	○			解剖学1 (総論・体表解剖)	医学を学習する上で最も基本となる正常な人体構造を系統的に学習する。特に総論では、人体の構成の基礎となる細胞や組織、体表面から見た解剖について学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	
9	○			解剖学2 (骨学)	鍼灸治療をする上でもっとも重要な部位である筋肉の走行を理解する前に、その付着部である骨を理解する。骨を理解することは筋肉を触診、経穴の取穴する上でランドマーク（目印）になるので骨をしっかりと理解する。	1前	30	1	○			○			○	

(医療専門課程 鍼灸学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
10	○			解剖学3 (筋学)	鍼灸治療をする上でもっとも重要な筋肉の走行、作用、支配神経などを理解する。また筋は、経穴や治療の部位で欠かせない部分であり、しっかり理解する。	1 後	30	1	○			○			○	
11	○			解剖学4 (脈管学)	生体の生命維持に関わる機能のうち、循環器系に加えて、生体の調節機構に関わる内分泌系の基本的構造について学習する。	1 前	30	1	○			○			○	
12	○			解剖学5 (内臓学)	呼吸機能、消化機能、排泄・生殖機能に関わるそれぞれの器官の正常な肉眼的構造と組織・細胞学的構造を学習する。	1 後	30	1	○			○			○	
13	○			解剖学6 (神経学)	神経系の基礎知識を身につけていく。その上で、鍼灸治療で起こりやすい医療過誤の一つである神経損傷を起こさぬよう、神経解剖学を十分修得する。	1 後	30	1	○			○			○	
14	○			生理学1	生命の基本単位である“細胞”の働きを中心に、体液の組成や分類、物質の移動について理解を深める。また、神経系の分類をはじめ、中枢神経系の働きや、自律神経の働きを交感神経系・副交感神経系を対応させながら学ぶ。	1 前	30	1	○			○		○		
15	○			生理学2	筋肉の構造と収縮の仕組みや、反射などを中心とした運動調節の仕組みについて学ぶ。また、感覚の生理学的意義や一般的な感覚受容のメカニズムについて学ぶ。	1 後	30	1	○			○		○		
16	○			生理学3	血液の種類・成分・働きや、血液型について学ぶ。また、循環、血圧・循環調節の仕組み、循環の反射性調節、リンパ系も理解する。さらに、呼吸器系の構造と機能や、消化器系の口腔内消化から小腸運動までの一連の消化メカニズムを理解する。	1 前	30	1	○			○		○		
17	○			生理学4	小腸以降の消化器系の働きや、排便反射について学ぶ。また、体温調節の仕組み・障害、排泄や体液調節、各内分泌腺・内分泌ホルモンの特徴・働きを学ぶ。生殖では性腺の働きと生殖機能や、成長・老化について理解する。また、生体の防御機構において人体の機能を総合的に学ぶ。	1 後	30	1	○			○		○		
18	○			運動学	今後リハビリテーション医学を学ぶにあたってその基礎となる障害やその治療のメカニズムを理解するために必要な知識を学ぶ。解剖学・生理学の復習も交えながら、主に運動を担っている骨・関節・筋肉・神経の構造機能、姿勢・歩行、反射などを取り上げ、臨床での活用をめざす。	2 前	30	1	○			○			○	



(医療専門課程 鍼灸学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
19	○			病理学概論1	鍼灸師として必要な病理学の知識を理解する。まず、病理学とはどのような学問か理解した上で、病理学の基礎から始め、病因、循環障害、退行性病変を理解する。	2 前	30	1	○			○			○	
20	○			病理学概論2	鍼灸師として必要な病理学の知識を理解する。その中には、進行性病変、炎症、腫瘍、アレルギー、先天異常も含まれるので、それぞれの概要やメカニズムを学ぶ。	2 後	30	1	○			○			○	
21	○			衛生学・公衆衛生学1	衛生学・公衆衛生学は、基礎医学と臨床医学の接点となる社会医学の分野であり、包括的な科目である。衛生学・公衆衛生学の理論や疫学の方法論を踏まえたうえで、人々の健康に影響を及ぼす様々な環境因子と疾病予防のあり方などについて学習する。	1 前	30	1	○			○		○		
22	○			衛生学・公衆衛生学2	衛生学・公衆衛生学は、人間の生存に影響を及ぼすさまざまな関連要因をふまえ、健康の保持・増進を目的とする学問である。公衆衛生制度の発展の系譜、わが国の公衆衛生のあゆみ、公衆衛生の各領域の仕組み、現状、課題について学ぶ。	1 後	30	1	○			○		○		
23	○			臨床医学総論1	医療面接から始まり、身体観察を行い、適切な治療を行うためには診察法や主たる症候に精通することが必須である。本科目では症候、臨床検査法などを理解し適切な治療を行う方法を学ぶ。	2 前	30	1	○			○		○		
24	○			臨床医学総論2	各種検査や疾患を理解し、検査所見や各疾患の症状から疾患を導き出し、カルテ記入ができるように学ぶ。	2 後	30	1	○			○		○		
25	○			リハビリテーション医学1	リハビリテーションを支える基本理念から障害の評価、さらには理学療法や作業療法などの医学的リハビリテーションについて総論的に学ぶ。	3 前	30	1	○			○		○		
26	○			リハビリテーション医学2	脳卒中、脊髄損傷、切断、小児、骨関節疾患など各疾患のリハビリテーションについて各論的に学ぶ。	3 後	30	1	○			○		○		
27	○			臨床医学各論1	本科目は、臨床医学における「整形外科学」を中心とした授業である。ともに西洋臨床医学の基礎であり、中核的存在である。西洋医学的な疾病へのアプローチ、すなわち西洋医学的思考の把握に直結し、その習得を目標とする。	2 前	30	1	○			○			○	
28	○			臨床医学各論2	臓器別（呼吸器疾患、循環器疾患、血液疾患、腎尿路疾患）について学び、それぞれの疾患の概要、発生機序、病態、症状、検査、治療などについて学習する。	2 後	30	1	○			○		○		

(医療専門課程 鍼灸学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
29	○			臨床医学各論3	臓器別（消化器疾患、神経疾患）、精神疾患の概要、発生機序、病態、症状、検査、治療などについて学習する。各疾患に対して、病態および症状を説明でき、鑑別できることを目標とする。	3前	30	1	○			○		○		
30	○			臨床医学各論4	感染症、内分泌疾患、代謝異常、眼科、一般外科、婦人科、麻酔科疾患の概要、発生機序、病態、症状、検査、治療などについて学習する。各疾患に対して、病態および症状を説明でき、鑑別できることを目標とする。	3後	30	1	○			○			○	
31	○			医療概論	医療に関するあらゆる事項を広く学習する。広い知識を身につけるとともに、自ら考え、判断する力を養い、医療人として独り立ちできるよう、精神面、知識面での基礎力を養う。	1前	30	1	○	△		○		○		
32	○			関係法規	はりきゅう施術は、人体に危害を及ぼすおそれのある行為を行うことも含まれているため、一定水準の知識及び技能を有する者が行う必要がある。免許者の業務が適正に行われるよう法の知識を習得する。	3後	30	1	○			○		○		
33	○			社会保障制度・職業倫理	医療システム、保険制度ならびに教育現場など鍼灸師を取り巻く現状について学ぶ。	1前	15	1	○			○		○		
34	○			東洋医学概論1	鍼灸治療を行う上で最も基礎となる東洋医学の基礎理論、人体に対しての考え方、疾病観を学ぶことを目的とする。	1前	30	1	○			○			○	
35	○			東洋医学概論2	鍼灸治療に直接関わる五臓の働きを中心とした蔵象ならびに病因病機について学ぶ。この基礎知識をしっかりと身に付け、東洋医学的鍼灸治療の基礎を固めていく。	1後	30	1	○			○			○	
36	○			東洋医学概論3	東洋医学的な基礎知識を踏まえて東洋医学的な診察法である四診（望診・聞診・問診・切診）について学ぶ。	2前	30	1	○			○			○	
37	○			東洋医学概論4	東洋医学の診断から治療に至る過程である弁証論地について学ぶ。東洋医学概論1～3で学んだ内容を含め、東洋医学の理論を臨床に活かすことを目的とする。	2後	30	1	○			○			○	
38	○			経絡経穴概論1	「経穴」は鍼灸治療を行う上で基本となるものである。本授業では名前（経穴名）、取り方（取穴法）、六臓六腑との関係を覚え、また要穴の意味を理解する。	1前	30	1	○			○		○		

(医療専門課程 鍼灸学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
39	○			経絡経穴概論2	本授業では、骨度法で身体各部の位置を理解し、全ての経穴の取穴ができることを目標とし、各経絡の要穴を理解し、鍼灸治療に必要な能力を身に付ける。	1 後	30	1	○			○		○		
40	○			経絡経穴概論3	経絡経穴概論 1, 2 で学んだ経穴について、人体を対象に取穴することで経絡の走行イメージとともに取穴方法を理解する。	2 前	30	1	○		△	○		○		
41	○			経絡経穴概論4	主要経穴とそれが存在する部位の筋肉、血管および神経について解剖学的な知識と共に部位ごとに学ぶ。	2 後	30	1	○		△	○		○		
42	○			はりきゅう理論	鍼灸施術とその治療効果を、科学の目で観察し、そのメカニズムを論理的に考察する能力を養うことを目的とする。また、鍼や灸の基本的知識（術式や製造方法など）を理解する。	3 後	30	1	○			○		○		
43	○			東洋医学臨床論1	鍼灸治療の適用範囲である各種疾患に対し、現代医学的側面から検討し適切な治療ができるようにする。疾患毎に注意を要するもの、適応となるものの判断を的確にできるようにする。	2 前	60	2	○		△	○		○		
44	○			東洋医学臨床論2	鍼灸治療の適用範囲である各種疾患に対し、東洋医学的側面から検討し適切な治療ができるようにする。	2 後	60	2	○		△	○			○	○
45	○			東洋医学臨床論3	症例によっては実際の変化を測定する実験実技の要素も取り入れ、知識と技術の両輪をバランスよく学ぶ。	3 前	60	2	○		△	○			○	○
46	○			東洋医学臨床論4	教科書のみの治療法・処方例にとらわれず、伝統的あるいは経験的知識に基づいた治療法も取り入れ、臨床現場で生かせる知識・技術を身につける。	3 後	60	2	○		△	○			○	
47	○			臨床鍼灸学1 （経絡治療）	日本の伝統的治療法である経絡治療は、症状に対する治療だけでなく病を起している根本をみつけアプローチする治療である。経絡治療をする上で必要な診察方法を習得することを目的とする。	3 前	30	1	△		○	○			○	○
48	○			臨床鍼灸学2 （経絡治療）	東洋医学概論の内容を、実際の臨床にどのように用いて、どのように診察するのかを経絡治療の立場から理解を深める。	3 後	30	1	△		○	○			○	○

(医療専門課程 鍼灸学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
49	○			生体観察	鍼灸師にとってランドマークの触知や筋の緊張度をツボの反応として触察することは必須である。これらを正確に実施するために必要な触察技術を実技を中心に学ぶ。	1 後	30	1			○	○		○		
50	○			病態生理学	鍼灸臨床で遭遇するさまざまな疾患においてみられる症状について、そのメカニズムを解剖学、生理学の知識をもとに理解し、他人に発表・説明できることを目的とする。	2 後	30	1	△	○		○		○		
51	○			あはきの適応診断	鍼灸臨床において病態把握に必要な徒手検査について学ぶ。	2 後	30	1	△		○	○			○	
52	○			社会はりきゅう学	鍼灸院に来院される高齢者を医学的、社会的にとらえ、鍼灸師としてどのように関わっていくべきか考えられるようにする。また、様々な分野の疾患について研究報告等を交えながら学ぶことによってさらなる理解を深める。	3 前	30	2	△	○	△	○		○		
53	○			はり基礎実技1	消毒操作、リスク管理（過誤・副作用）の知識を学んだ上で、鍼を刺入するという一番基礎的な技術を何度も基礎練習を繰り返し身に付ける。	1 前	60	2	△		○	○		○		
54	○			はり基礎実技2	解剖学的な経穴部位の知識を十分理解した上で、リスク管理をしながら、各経穴・各部位への刺鍼技術を身に付ける。	1 後	60	2	△		○	○		○		
55	○			きゅう基礎実技1	灸術を理解し、適切な消毒法を含む施術順序・手技を修得し、人に対し施術することができるよう、基礎知識・基礎技術を学ぶ。	1 前	30	1	△		○	○		○		
56	○			きゅう基礎実技2	様々な灸法を理解し身に付けた上で、人への施術や、難しい部位への施灸技術を身に付ける。	1 後	30	1	△		○	○		○		
57	○			はりきゅう応用実技	特殊鍼法（皮内鍼、円皮鍼、小児鍼、接触鍼、灸頭鍼）、低周波鍼通電刺激などを学ぶ。また教科書以外からも運動鍼、頭鍼など臨床で使用されている手技を身に付ける。	2 前	30	1	△		○	○			○	
58	○			はりきゅう実践実習1（西洋医学系1）	西洋医学的診察内容（関節可動域測定（ROM）、徒手筋力検査（MMT）、血圧測定、反射検査（深部腱反射・病的反射・表在反射）、感覚検査）を理解・習得し、身体各部位（主要な関節）の評価を行う。	2 前	60	2	△		○	○		○		

(医療専門課程 鍼灸学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
59	○			はりきゅう実践実習2 (西洋医学系2)	脳神経検査法・神経学的所見や、頸部・肩関節・前腕部の評価法、胸郭出口症候群・末梢神経絞扼障害の診察と評価、足関節・膝関節・腰部の評価と治療に対する知識・技術を修得する。	2後	30	1	△		○		○			
60	○			はりきゅう実践実習3 (西洋医学系3)	はりきゅう実践実習1・2で習得した知識・技術を活かし、臨床現場で種々の疾患に対応できるよう症例検討を中心とした内容を行う。総合診療的な判断・施術ができる鍼灸師を育成する。	3前	60	2	△		○			○		
61	○			はりきゅう実践実習4 (東洋医学系)	四診（望診・聞診・問診・切診）を実践し、総合判断のもとに証を立て、その証に対し治療方針・配穴の決定を行い、治療に至るまでの一連の東洋医学的治療を身につけることを目的とする。	2後	30	1	△		○			○		
62	○			はりきゅう実践実習5 (東洋医学系)	本校独自の東洋医学治療システムを使った診察・治療法を身に付ける。また、症例検討を中心とした内容を繰り返すことで、東洋的な判断・施術ができる鍼灸師を育成する。	3前	30	1	△		○			○		
63	○			はりきゅう臨床実習前教育	臨床実習に臨むにあたり、医療面接からはり・きゅうの基本操作など基本的な知識・技術を確認し、取得できることを目指す。	2前	30	1	△		○			○		
64	○			はりきゅう総合実習	臨床現場に出る前に今までの実技内容を総合的に振り返り、確実に自分のものとする。臨床現場を想定しお互いに治療を行うことで、実際の患者と対峙した時に落ち着いて迷いのない鍼灸施術を行うことが出来るようになることを目的とする。	3後	30	1	△		○				○	
65	○			臨床実習1	付属鍼灸院において、一般の患者を対象とした治療の見学を中心に実施し、治療の流れや臨床における心得を理解する。	1前後	45	1			○			○		
66	○			臨床実習2	鍼灸院、鍼灸接骨院、医療機関、介護施設さらにはスポーツの現場において見学を中心とした体験実習を行う。	2前後	45	1			○		○	○		
67	○			臨床実習3	付属治療院・付属治療施設において実習簿をもとに現場の指導者や院長より指導を受け、鍼灸臨床実習を行う。さらに担当教員が個別面談をはじめとしたフィードバックを行う。	3前後	90	2			○			○		
68	○			総合演習1	卒業研究を行う。また、研究や学術活動に対する心構え・態度や研究への基本的知識を習得し、研究的思考の過程を知り、研究結果の事象に対し科学的に考察し、将来の研究的素養を養うことを目的とする。	2後	30	1		○			○		○	

(医療専門課程 鍼灸学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
69	○			総合演習2	総合演習1の卒業研究を引き続き行ない、実際に論文作成と論文発表を行なう。そして能動的で応用力のある鍼灸師を育むことを目的とする。	3 前	30	1		○		○		○		
70	○			総合演習3	様々な学校行事や学外セミナーに参加することで鍼灸師として必要な人間性・素養を見つめなおし、身に付けることを目的とする。	1 前後	30	1		○		○		○		
71	○			総合演習4	様々な学校行事や学外セミナーに参加することで鍼灸師として必要な人間性・素養を見つめなおし、身に付けることを目的とする。	2 前後	30	1		○		○		○		
72	○			総合演習5	様々な学校行事や学外セミナーに参加することで鍼灸師として必要な人間性・素養を見つめなおし、身に付けることを目的とする。	3 前後	30	1		○		○		○		
73	○			医学演習1	自ら学ぶ習慣を身に付け、各学年で行われている科目の理解を高めるため『解剖学』の復習や演習を中心に授業を行う。	3 前	30	1		○		○		○		
74	○			医学演習2	生理学や病理学などで人体の仕組みなどの知識を深めてその知識を使用し、整形外科疾患やリウマチ膠原病疾患のみならず様々な疾患の病態を理解する能力を持つことを目標とする。	3 前	30	1		○		○			○	
75	○			医学演習3	自ら学ぶ習慣を身に付け、各学年で行われている科目の理解を高めるため『東洋医学概論』の復習や演習を中心に授業を行う。	3 後	30	1		○		○		○		
76	○			医学演習4	国家試験に合格できる学力レベルに到達するだけではなく、生理学や病理学などで人体の仕組みなどの知識を深めてその知識を使用し、整形外科疾患やリウマチ膠原病疾患のみならず様々な疾患の病態を理解する能力を持つことを目標とする。	3 後	30	1		○		○			○	
77	○			医学演習5	自ら学ぶ習慣を身に付け、各学年で行われている科目の理解を高めるため『臨床医学総論』の復習や演習を中心に授業を行う。	3 後	30	1		○		○		○		
78	○			医学演習6	模擬試験などを実施し、定期的に学習進捗状況を確認しながら卒業・国家試験に向けて自らに課された弱点を解消することを目的とする。	3 前後	30	1		○		○		○		
合計					78 科目			96			単位					

卒業要件及び履修方法

授業期間等

(医療専門課程 鍼灸学科)																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
卒業要件：								卒業要件については規定の出席率を満たし、指定された単位数を修得し、卒業試験に合格したものを卒業判定会議で審査し、校長が認定したものとする。					1 学年の学期区分		2 期	
履修方法：								履修評価は、科目試験、課題遂行、出席状況、授業貢献度、その他の履修状況によって行う。学則に定める教育課程の所定の科目を履修し、所定の単位を取得しなければ、進級もしくは卒業できない。					1 学期の授業期間		15 週	

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。